会社員男性、早朝自宅にて虫となり発見か

11/18(土)、19(日)、25(土)、26(日)、12/3(日)、9(土)、10(日)
各日 14:00開演　会場：静岡芸術劇場

某日某所、セールスマンの男性が虫となって発見された。調べによると、男性は出勤時間を過ぎても自室から出ず、不審に思った母親らが呼びかけたところ、部屋から巨大な虫が現れたという。理解不能な言葉を発し、現場にいた職場の支配人は「まるで獣の声だった」と証言している。

男性はグレゴール・ザムザさん（年齢不明）。現在も自室にこもっており、妹のグレーテさんが掃除や食事の世話をしている。唯一の稼ぎ手が虫となり、家計は切迫。今後は空き部屋を下宿にするなども検討するようだ。

今秋、グレゴールさんを主人公とする小説『変身』の舞台を、SPACが再演。演出は小野寺修二。静岡芸術劇場にて。

SPAC芸術総監督 宮城聰のひとこと

制作部　中野三希子が語る 小野寺修二版『変身』

二〇〇八年二月。東京の小劇場で、初めて小野寺修二氏の作品を観る。氏の名前と、マイム（無言劇）をベースにしていることぐらいしか知らずに座席につき、ほどなくして開演。直後、私はこの演出家に度肝を抜かれることになる。

緻密に組みあわされた身体の動き。緩急自在のテンポ。ちりばめられたユーモア。身体ってこんなに雄弁なんだ、と驚かされる。小野寺さんの作品は、「マイム」と聞いて私たちがイメージするよりもうんと「おしゃべり」だ。

『変身』は、主人公がある朝突然虫になる、という荒唐無稽な物語。SPAC俳優の力強い語りによって、そのテキストが舞台上に溢れ出す。言葉は動きと密接に絡み合い、時に排除し合って想像をかき立てる。そして、空間にまで働きを与えるような小野寺演出を強力に後押しする舞台美術。床は壁になり、扉になり、主人公グレゴールの部屋は次の瞬間、家族の集う居間へ、また違う場所へと変わっている。さらには人物までもが、いつのまにやら違う姿に。ここはどこ？　あれはだれ？　疑問に思う暇もない。ただただ、カフカの不条理な世界が舞台の上で膨らみ、私たちを翻弄し、圧倒するのだ。

「一生やりたくないと思っていた」とは、『変身』に向かう小野寺さんの言葉。作家への尊敬の念ゆえの一言だ。その強い想いを込めた作品が、今回再演を迎える。

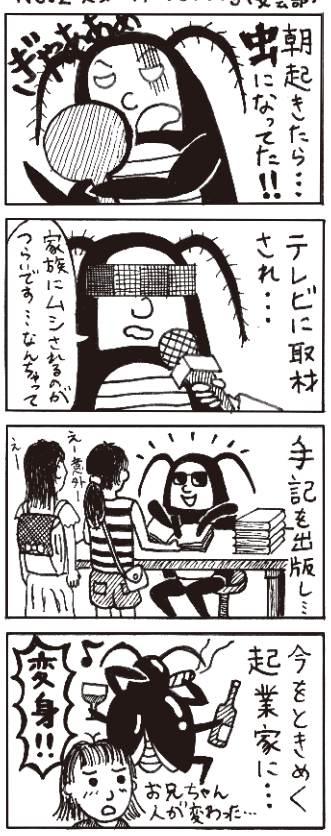
不条理劇だなんて難しそうだと思った方も、そうでない方も。動きと言葉と、そして空間の変化とに巻き込まれながらカフカを「感じる」この作品に、ぜひ度肝を抜かれていただきたい。

身体と言葉に圧倒される カフカの世界「感じて」

写真・三浦興一

GoGo!シアボくん

No.2 変身　作・大田澪(SPAC文芸部)



日本が誇る「舞台芸術のカフカ」小野寺さんが、カフカそのものを演出したら、そりゃ鬼に金棒だ！

演出　小野寺修二

©石川純

演出家。日本マイム研究所にてマイムを学ぶ。九五年～〇六年パフォーマンスシアター水と油。二〇〇八年カンパニーデラシネラを立ち上げる。小中学校巡回公演や瀬戸内国際芸術祭等劇場外でも積極的に作品を発表。二〇一五年度文化庁文化交流使。

出演

大高浩一

貴島豪

榊原有美

鈴木真理子

たきいみき

武石守正

舘野百代

野口俊丞

宮城嶋遥加

吉見亮

スタッフ

舞台監督　山田貴大
舞台美術デザイン　深沢襟
照明デザイン　吉本有輝子
音響デザイン　加藤久直
衣裳デザイン　駒井友美子
演出部　神谷俊貴、渡部宏規、折本弓佳
美術担当　佐藤洋輔、渡部宏規
照明操作　久松夕香
音響操作　山崎智美
ワードローブ　清千草
演出助手　藤田桃子
制作　中野三希子、梶谷智

平日も公演やってます！

中高生鑑賞事業 SPACeSHIP（スペースシップ）げきとも！

11/13(月)13:30、14(火)13:30、15(水)18:00
21(火)10:30、22(水)13:30、24(金)13:30
30(木)10:30 / 14:30
12/7(木)13:00、13(水)10:30 / 14:30　以上、予定

一般販売のお席もございます。(枚数限定)
ご予約は SPACチケットセンターまで。TEL：054-202-3399（10:00～18:00）

観劇バス

こりゃ楽ちん！

定員あり。お早めにお申し込みください。

【東京バス】11/18（土）
渋谷発 9:30 → 劇場着 13:00
<片道1000円>　申込締切：11/15(水)
申込先：日本旅行 静岡支店
TEL：054-254-8375（平日10:00～18:00）

【静岡東部バス】11/19（日）
修善寺駅発 10:10 → 三島駅発 11:05 → 沼津駅発 11:40 → 劇場着 13:00
<乗車無料>　申込締切：11/17(金)
申込先：SPACチケットセンター（左欄 / 裏面参照）

※お帰りの便はアーティストトーク終了後に出発いたします。

新聞題字・宮城聰